

伊那街道を探る（田口）

はじめに

設楽町には、江戸時代から明治末期にかけて、中馬（物資を馬に積み運ぶ駄賃稼ぎ）が行き来した道が通っていました。

この道を伊那街道と言っていますが、伊那街道は、中馬街道のルートの一つであり、根羽く吉田（豊橋）の交易路でした。

さて、この道が実際、田口地区のどこを、どう通っていたのでしょうか。当時から百年以上経過し、当時と現在を比較すれば、大きく様変わりしています。そのため、実際ルートを具体的に探ろうとすると不明な点がいっくつかあります。そこで、まず手始めに田口地区のルートを探ってみることにしました。

○中馬街道

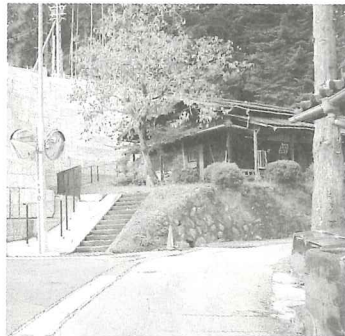
この街道は、内陸の信州地方と三河あるいは尾張海岸地方を結ぶ主要な交易路として発達し、中山道の脇往還として、庶民の生活にとって重要な道でした。飯田を南下した中馬道は、根羽で二分し、一つは稲武・足助を経て岡崎・名古屋方面（飯田街道）へ、他の一つは、津具・田口・海老を経て、新城・吉田（伊那街道）へ達するものでした。（北設楽郡史より）

このほかに脇街道もありましたが、今回は省略します。

○伊那街道における田口

田口宿止宿の搬送馬の出発地をみると、根羽・平谷などが圧倒的に多いです。これは、駄馬の一日行程を五く七里とすると、田口宿が地理的に一日ないし二日間の行程上に位置するため利用されたようです。

（北設楽郡史より）
田口地区の伊那街道



中島地区の伊那街道入口付近

萩平く栄町（中島間）

この間のルートは、現在の道路とほぼ同一です。萩平から大田屋さんの前へ辿り、左に曲がり国道二五七号に出、旧役場前を通り、さらに角屋を左に曲がって中島を辿る道です。（設楽町村落誌より）長い年月の中で、道路の様子も当時とは異なっていると考えられます。【図のA】

中島く太田口（小西地区）付近
中島の旧家井戸入（屋号・東京在任）横から宅地の裏を通って山道を登り始めると土手上に石

仏等が祀られています。その下から登り勾配に山道を進むと藤本久雄氏宅方面に向かう道路と交差し、土手の上から振り返って見ると、街道だっただろうと推測できる山道跡がはつきりと見られます。交差した地点の道路を横切り、その付近で、稲武へ通じる大崎道と伊那道に分岐します。（藤本久雄氏談）

この分岐点で右に湿地帯を迂回し、現在の設楽中学校裏へ向かう沢伝いの道をたどり学校裏に出ます。そこから、大法寺（現在田邊喜悦氏宅前）に登り勾配に進み、小西地区にでます。ここからふれあい広場テニスコート付近に辿るルートが特定できませんでした。【図のC・D】

大田口く小松口まで
テニスコート横のフェンス越しの藪に入り、再び街道だった

だろうと推測できる山道跡が伺えます。その近くには、石仏も何体かありました。山道跡の藪を掻き分けながら辿ると、国道二五七号に交差する土手上に至ります。ここは、通称「ぬすと石」に通じる地点です。ここでも道路で遮られ、ルートははつきりしません。ぬすと石から小松口への山道は、昭和三十年代までは、長江・小松地区の小・中学生の通学路として実際使われ、山道の跡がはつきり残っています。【図のB】

おわりに
今回歩いて探った田口地区の不明の伊那街道は、ほんの一部をこま切りに辿ったに過ぎません。山道跡は、地形が変わった現在からは、想像できません。設楽中学校が以前は山であったことを思い浮かべると、納得できま

した。
まだまだ情報不足で、不確かさが残ります。誤りをご指摘いただけるとありがたいと思います。

興味をお持ちの方は散策してみたいかがですか。

（設楽町文化財保護審議会委員

田邊 雅己）

